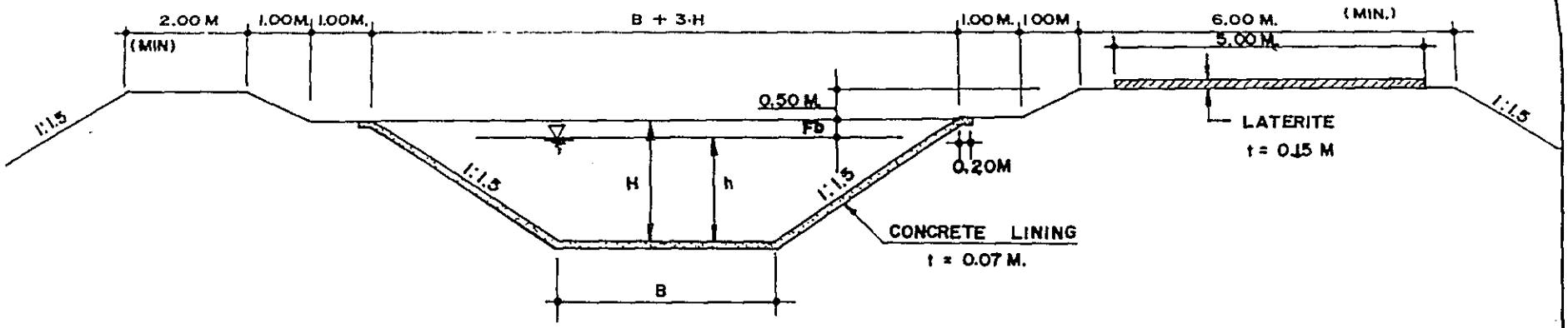
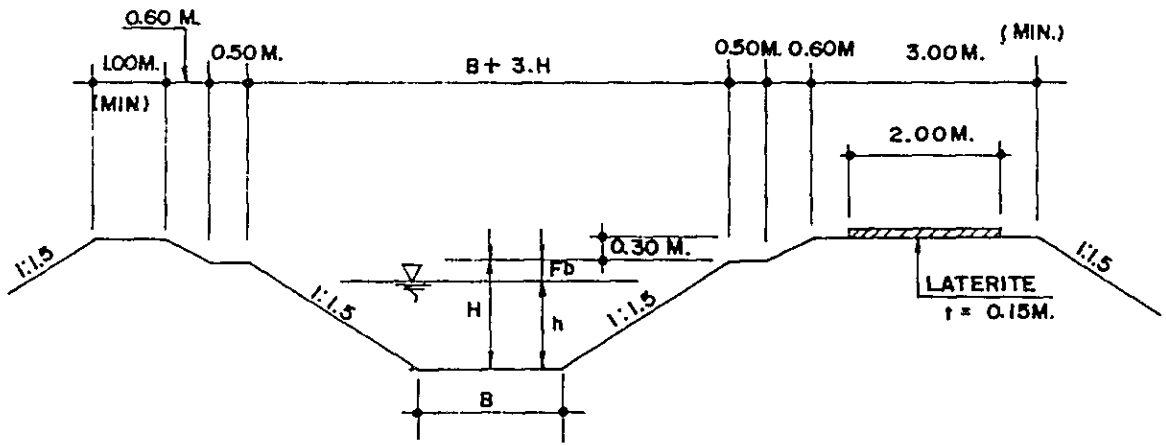


MAIN CANAL



SCALE = 1 : 100

LATERAL CANAL

図 6. 1　かんがい用水路標準断面図

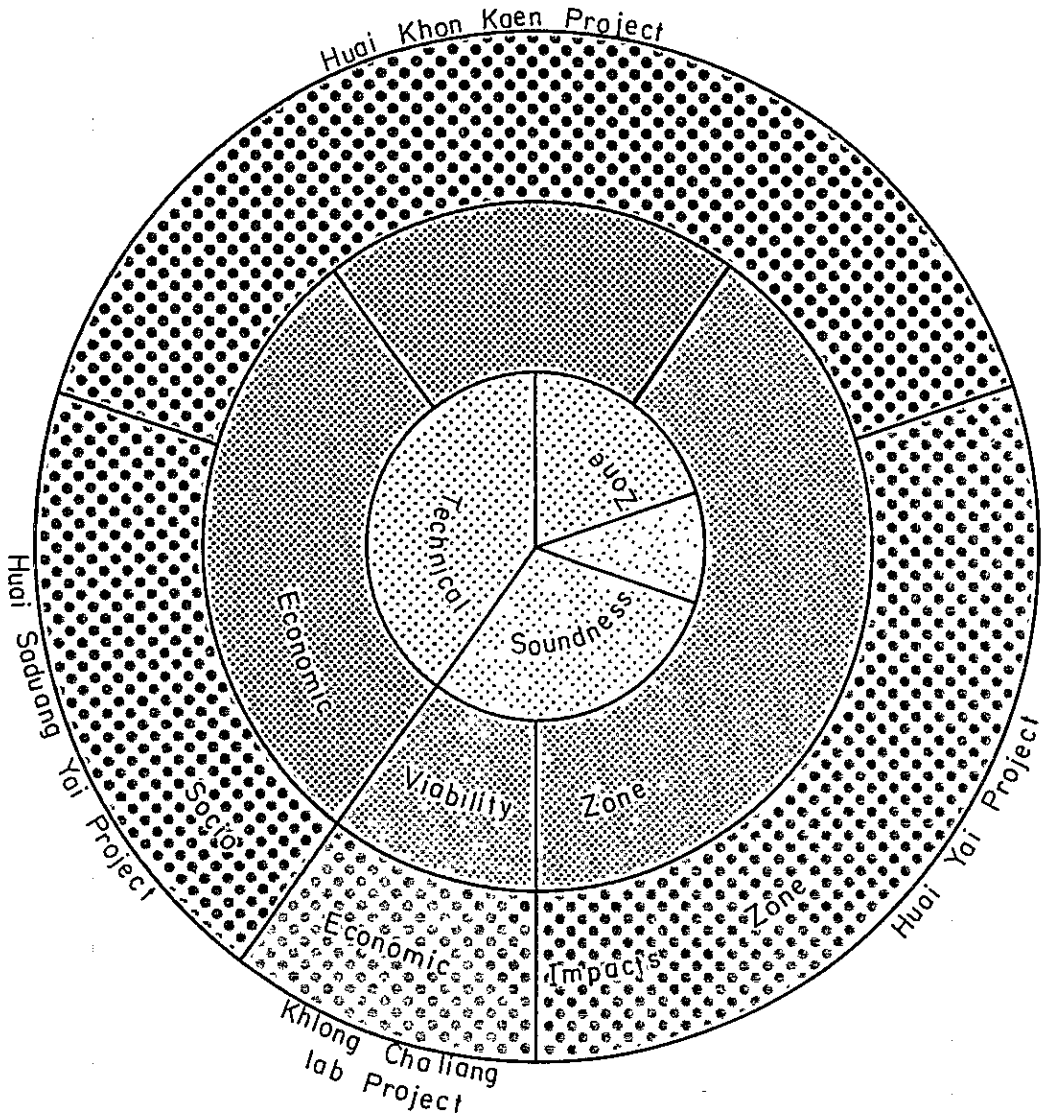
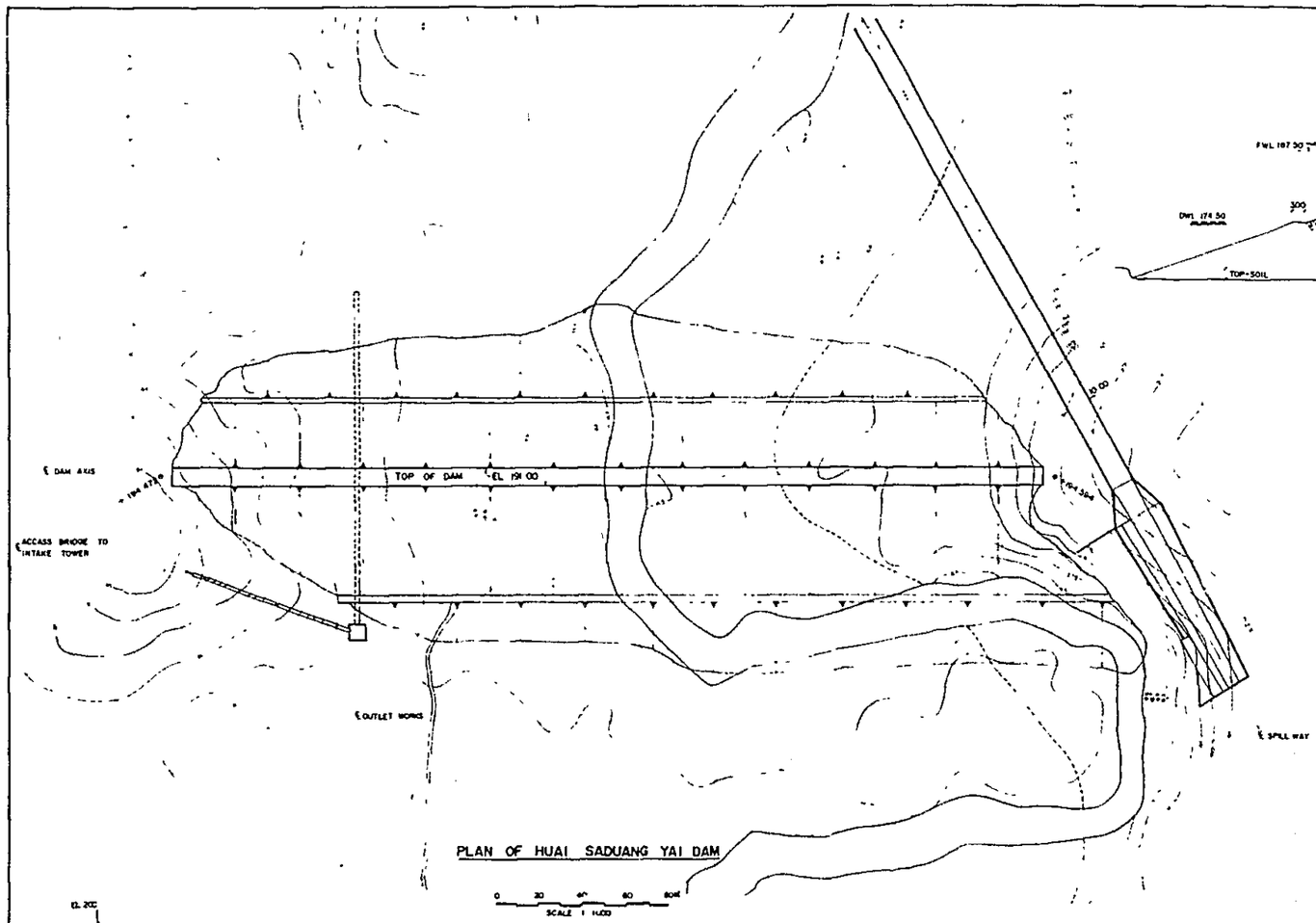


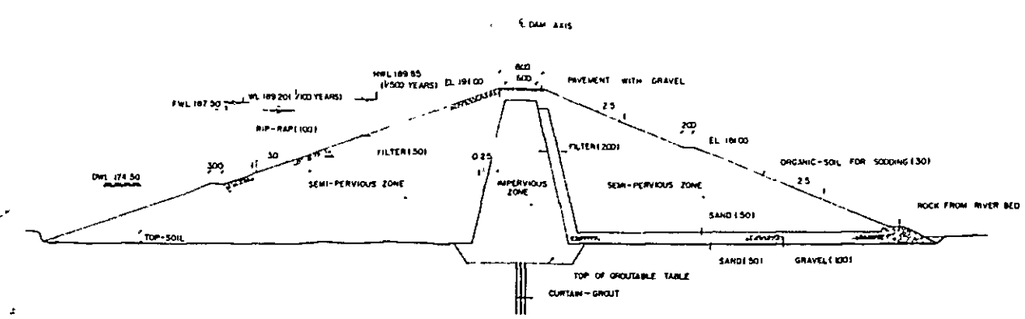
図 9.1　事業実施優先順位選定図

設　計　図

PLATE NO

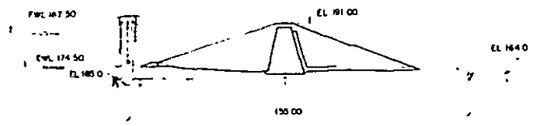


PLAN OF HUAI SADUANG YAI DAM



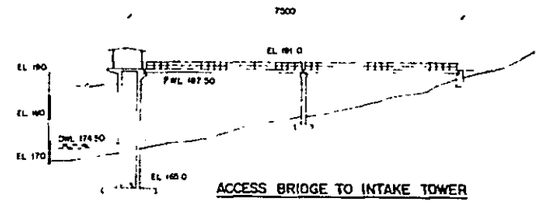
TYPICAL CROSS SECTION OF DAM

SCALE 1 400



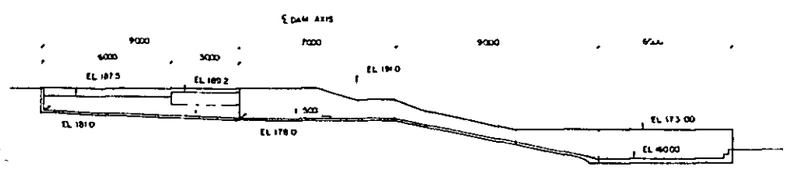
LONGITUDINAL SECTION OF OUTLET WORKS

SCALE 1 1000



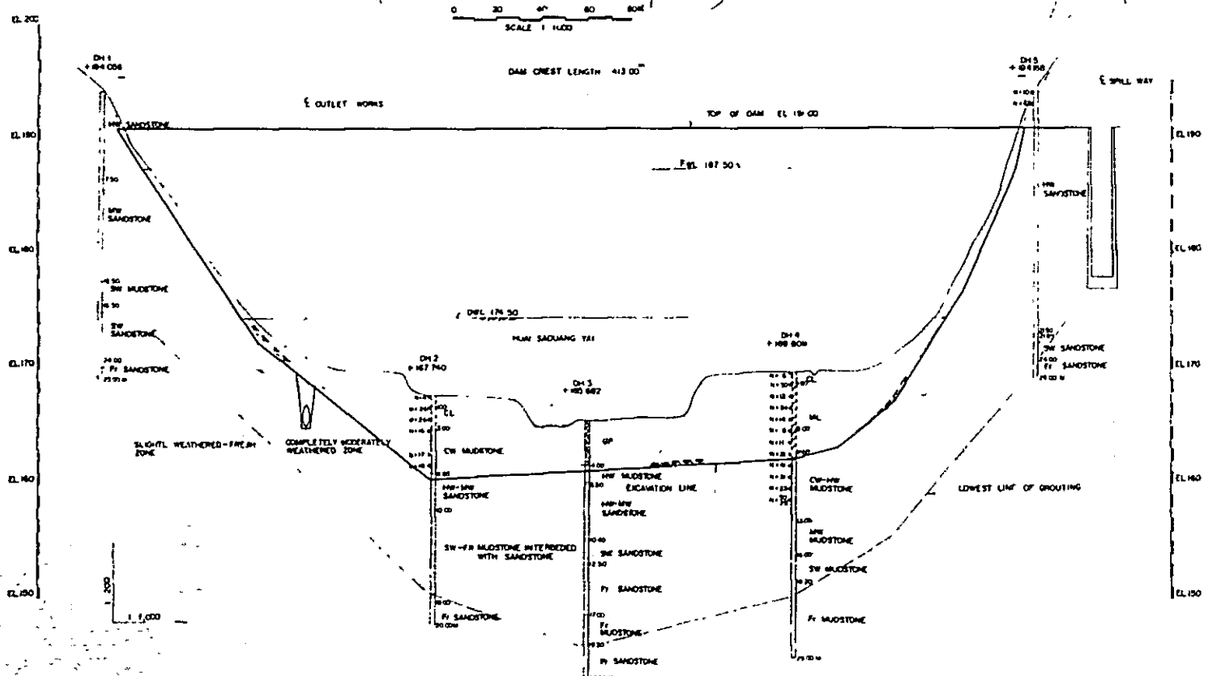
ACCESS BRIDGE TO INTAKE TOWER

SCALE 1 500



LONGITUDINAL SECTION OF SPILL WAY

SCALE 1 1,000

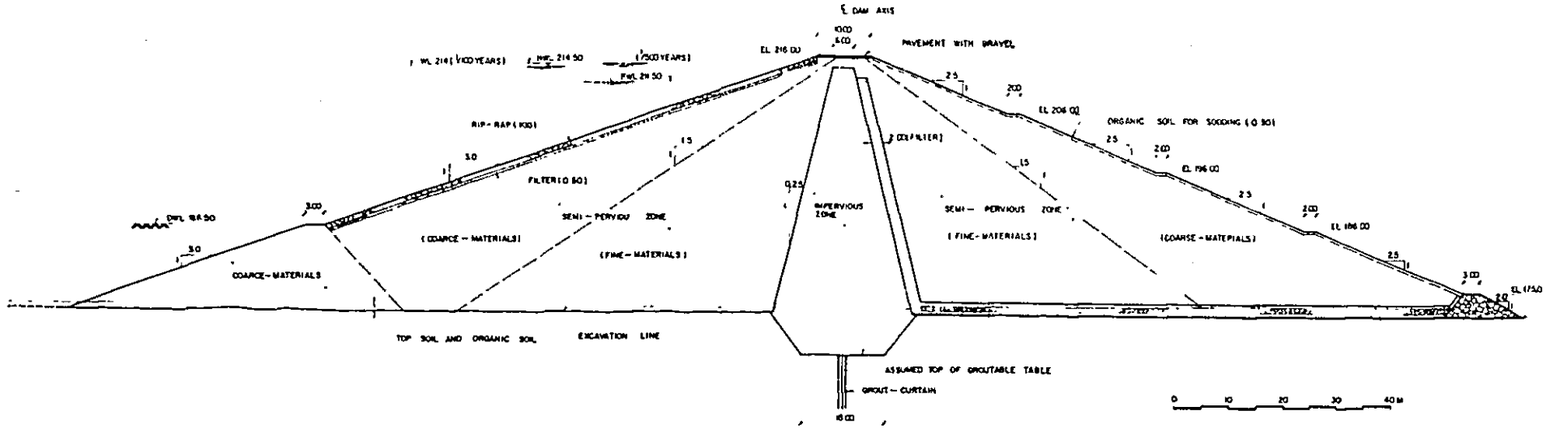


LONGITUDINAL SECTION OF DAM AXIS

ファイ・サディアング・ヤイダム計画一般図

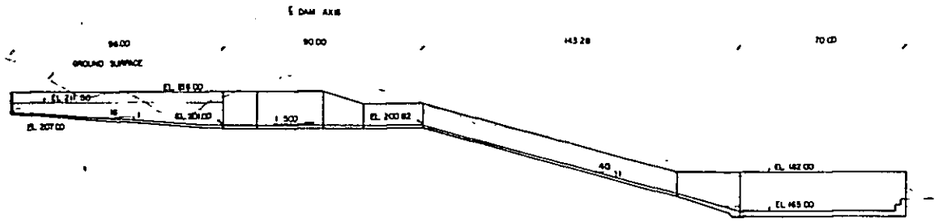
JAPAN INTERNATION COOPERATION AGENCY	
THE UPPER PASAK MEDIUM SCALE IRRIGATION PROJECT	
TITLE OF DRAWINGS GENERAL LAYOUT OF HUAI SADUANG YAI DAM (1/1)	
PREPARED BY	DWG NO 01
CHECKED BY	

PLATE NO



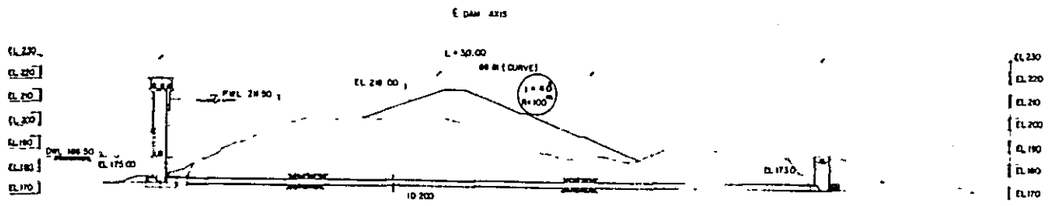
TYPICAL CROSS SECTION OF DAM

SCALE 1 400



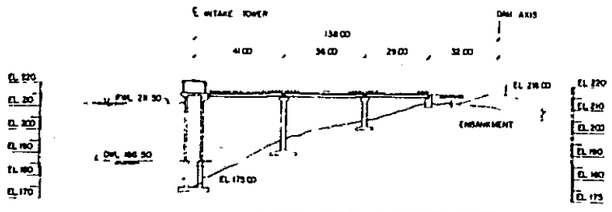
LONGITUDINAL SECTION OF SPILL WAY

SCALE 1 1000



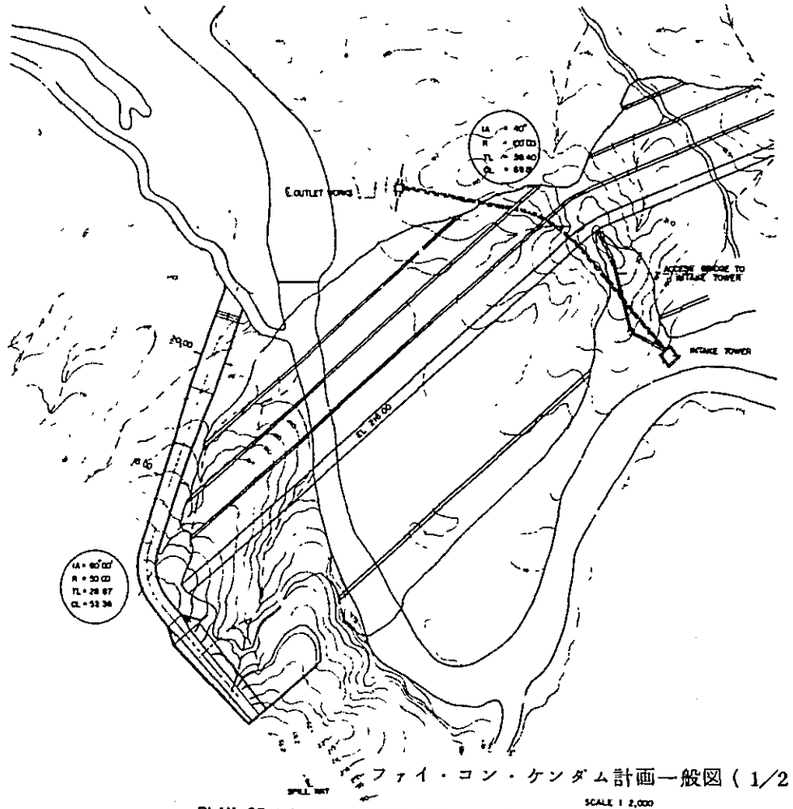
LONGITUDINAL SECTION OF OUTLET WORKS

SCALE 1 1000



ACCESS BRIDGE TO INTAKE TOWER

SCALE 1 1,000



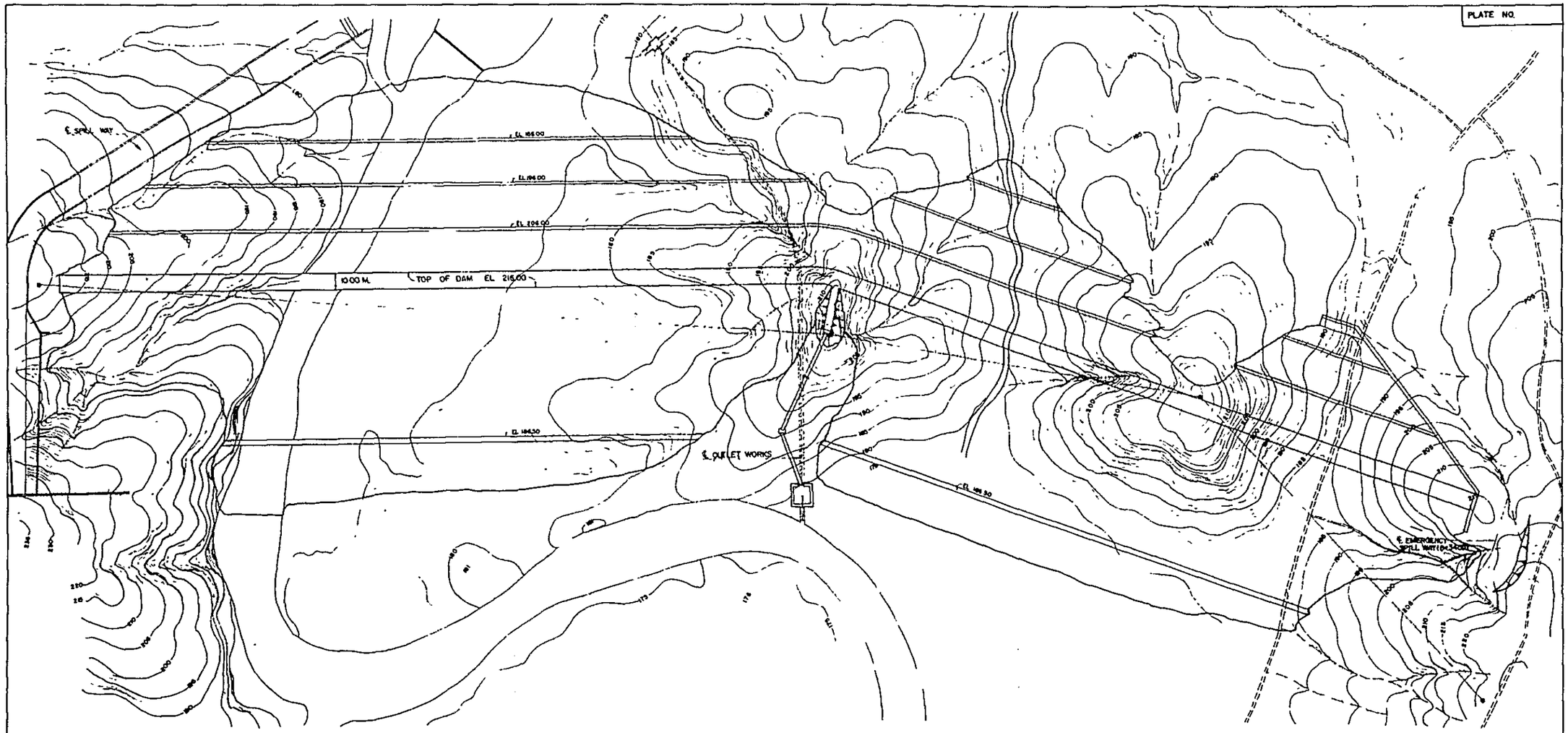
ファイ・コン・ケンダム計画一般図（1/2）

PLAN OF HUAI KHON KAEN DAM

SCALE 1 2,000

JAPAN INTERNATION COOPERATION AGENCY	
THE UPPER PASAK MEDIUM SCALE IRRIGATION PROJECT	
TITLE OF DRAWINGS GENERAL LAYOUT OF HUAI KHON KAEN DAM (1/2)	
PREPARED BY	DWG NO 02
CHECKED BY	

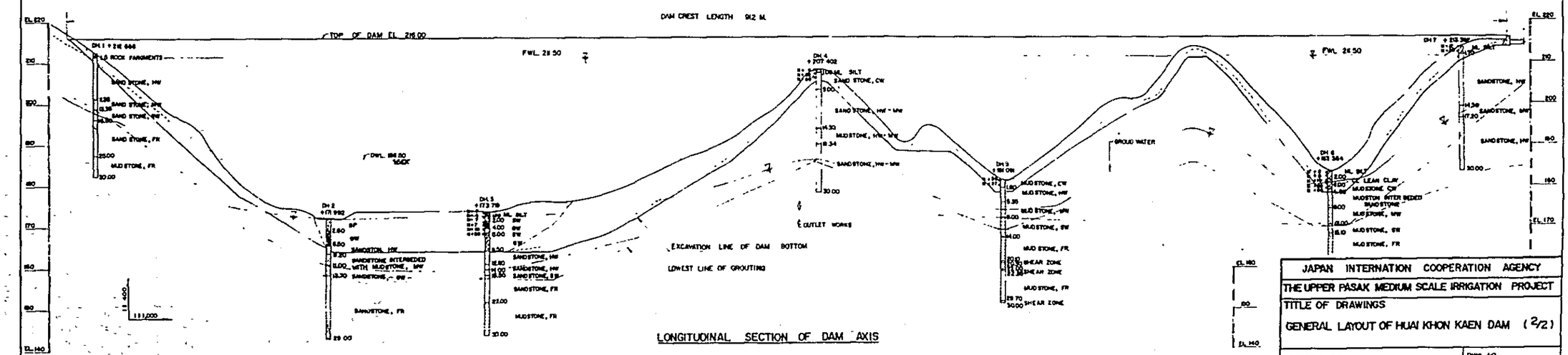
PLATE NO.



PLAN OF HUAI KHON KAEN DAM

SCALE 1 : 1,000

0 20 40 60 80 100 M



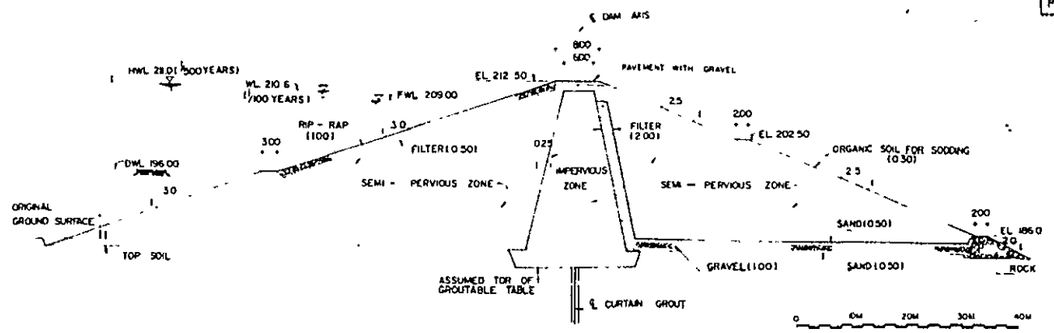
LONGITUDINAL SECTION OF DAM AXIS

ファイ・コン・ケンダム計画一般図（2/2）

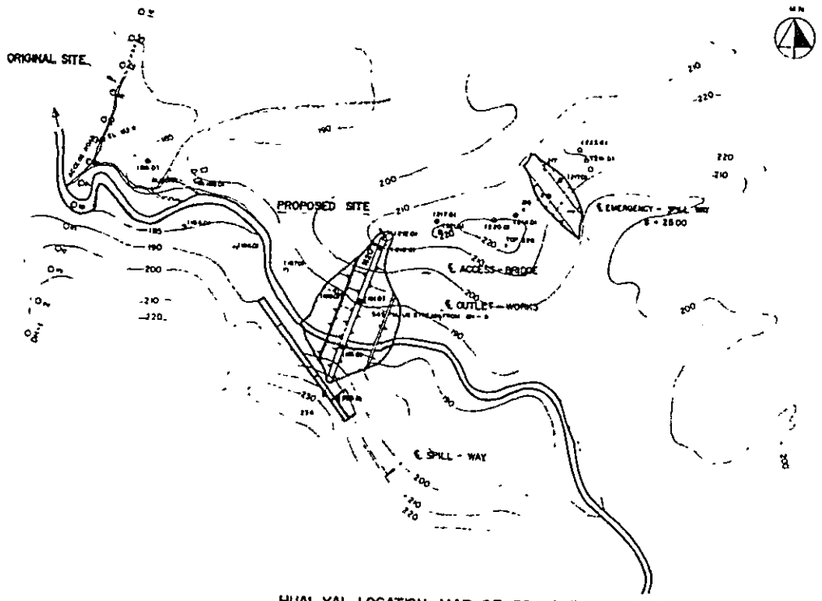
JAPAN INTERNATION COOPERATION AGENCY	
THE UPPER PASAK MEDIUM SCALE IRRIGATION PROJECT	
TITLE OF DRAWINGS GENERAL LAYOUT OF HUAI KHON KAEN DAM (2/2)	
PREPARED BY	DWG NO 03
CHECKED BY	

PLATE NO

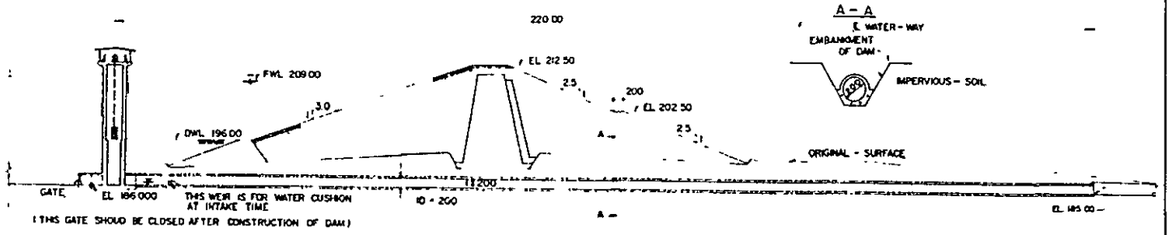
RESERVOIR AREA
SCALE 1 : 8,000



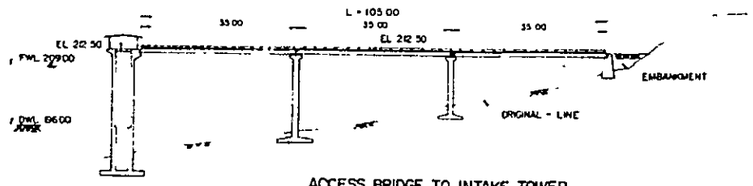
TYPICAL CROSS SECTION OF DAM
SCALE 1 : 400



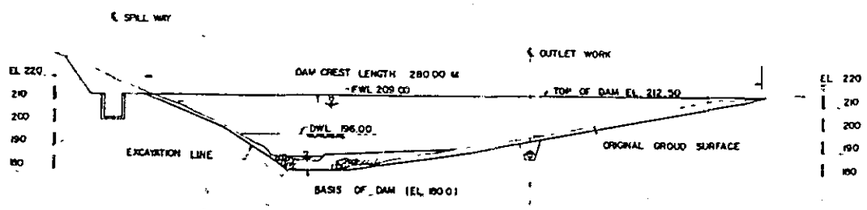
HUAI YAI LOCATION MAP OF PROPOSED DAM SITE



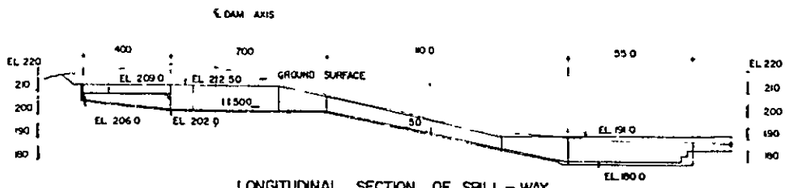
PROFILE OF OUTLET WORK
SCALE 1 : 500



ACCESS BRIDGE TO INTAKE TOWER
SCALE 1 : 500



LONGITUDINAL SECTION OF DAM
SCALE 1 : 1000

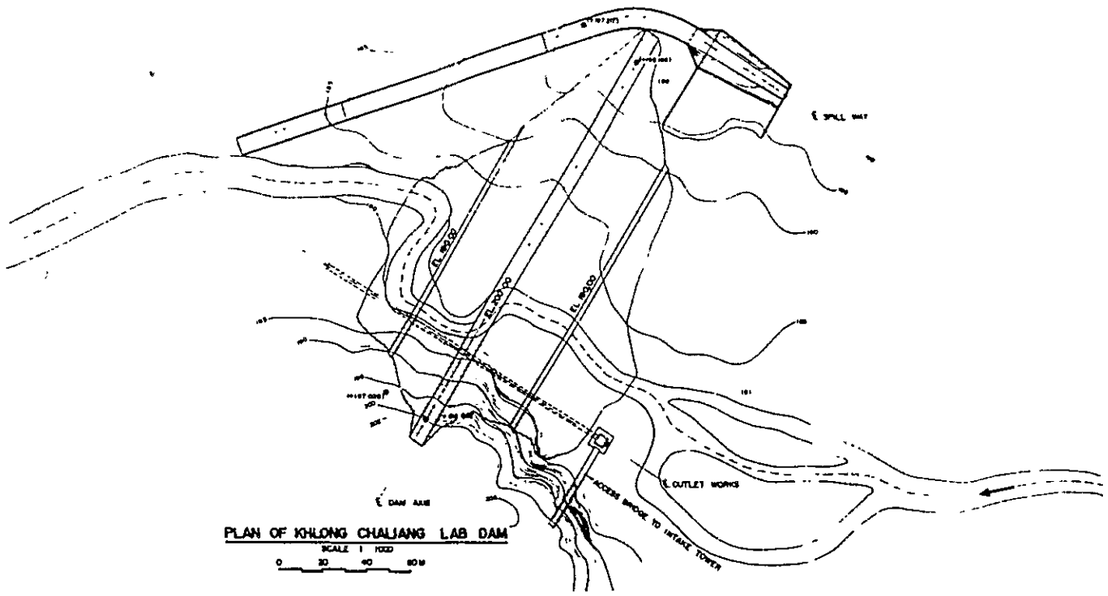


LONGITUDINAL SECTION OF SPILL - WAY
SCALE 1 : 1,000

ファイ・ヤイダム計画一般図

JAPAN INTERNATION COOPERATION AGENCY	
THE UPPER PASAK MEDIUM SCALE IRRIGATION PROJECT	
TITLE OF DRAWINGS GENERAL LAYOUT OF HUAI YAI DAM (1/1)	
PREPARED BY	DWG NO 04
CHECKED BY	

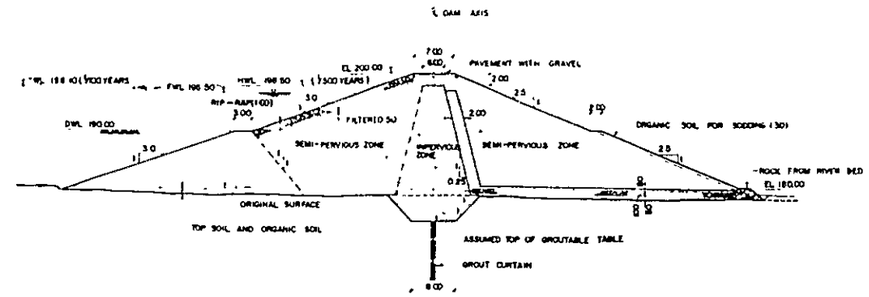
PLATE NO.



PLAN OF KHLONG CHALIANG LAB DAM

SCALE 1 1000

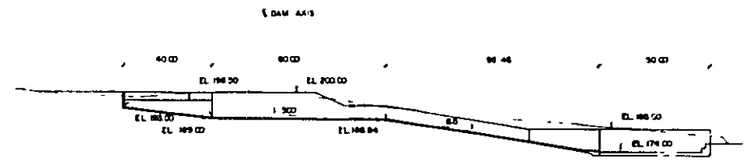
0 20 40 80 M



TYPICAL CROSS SECTION OF DAM

SCALE 1 400

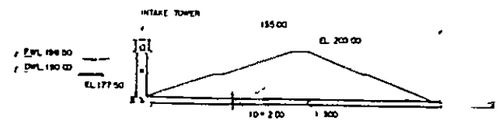
0 10 20 30 M



LONGITUDINAL SECTION OF SPILL WAY

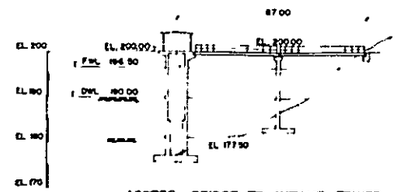
SCALE 1 1,000

0 20 40 80 M



LONGITUDINAL SECTION OF OUTLET WORKS

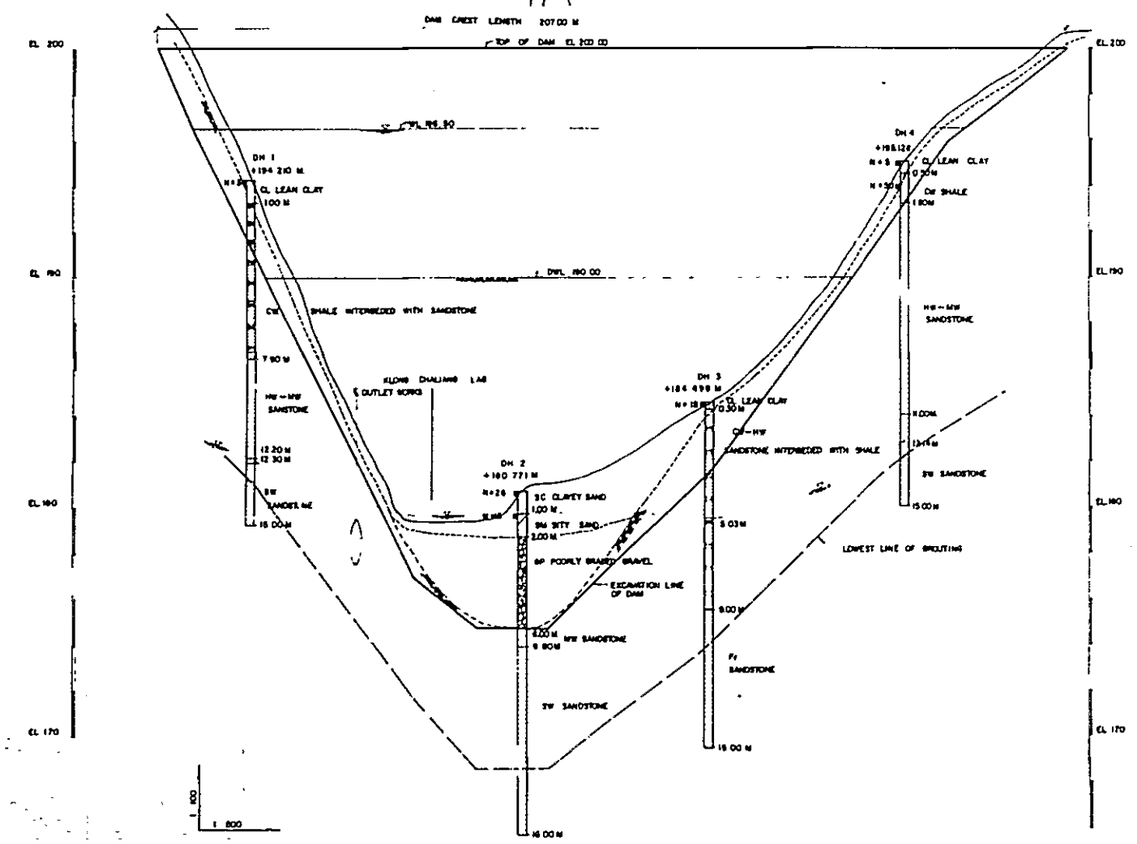
SCALE 1 1,000



ACCESS BRIDGE TO INTAKE TOWER

SCALE 1 800

0 10 20 30 40



LONGITUDINAL SECTION OF DAM AXIS

クーロン・チャリアング・ラブ計画一般図

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY	
THE UPPER PASAK MEDIUM SCALE IRRIGATION PROJECT	
TITLE OF DRAWINGS	
GENERAL LAYOUT OF KHLONG CHALIANG LAB DAM (1/1)	
PREPARED BY	DWG NO 05
CHECKED BY	

ア タ ッ チ メ ン ト

アタッチメント　1.

パサック河流域における水資源の将来展望

1. パサック河流域の水資源

パサック河流域の年平均雨量は，流域内雨量観測所の長期記録より約1,170㎜となる。これを流域内の人口との関連でみると，１人当りの水資源は年約16,000㎥となり，世界の平均量34,000㎥に比べて半分以下となっている。従って，パサック河流域の水資源は非常に限られているといえる。

2. 水資源開発に対する基本概念

流域内における水の需要は，地域開発，人口増加，農業構造の変化等により年々増えてきている。流域内可能水資源からみて，かんがい用水の需要と供給の関係は将来アンバランスとなると予想される。流域内における水資源開発の早期実施と共に節水および効果的な水使用が強く望まれる。

3. 流域内開発可能水資源量

流域内水資源は河川が主であり，地下水は河川水の補助にすぎない。河川水の安定，維持に重要な役割をはたす森林地帯はわずか全流域の３５％にすぎず，従って貯水池ダムの築造は最も効果的な水資源開発となる。

パサック河流域形状は，全長４００Kmに対し平均幅が４５Kmと非常に細長い。数多くの支流が東および西側からパサック河に流れ込んでいる。このことより，パサック河の開発は主に支流およびパサック河上流部に貯水池を築造することによって行なわれるべきである。

パサック河上流部の流域は，地形的にみて貯水池築造に適しているが，各支流の流域は狭く，勾配も急で余り貯水池築造に適しているとはいえない。このことよりみて，流域内の可能開発水資源量は，最大限流域内賦存水資源の５０％と推定され，将来の最大開発可能量は約１２億㎥と算定される。

4. 流域内における水需要

4.1　水需要の現況

a）かんがい用水

流域内において現在施工中および管理中のかんがいプロジェクトは，以下に示す様に約８７０,０００ライ（１４０,０００ha）である。

i）	上流部	４３,０００ライ	（　６,９００ha）
ii）	中流部	１５０,０００ライ	（２４,０００ha）
iii）	下流部	６８０,０００ライ	（１０８,８００ha）
	計	８７３,０００ライ	（１３９,７００ha）

流域内における作付体系および作付率の現況よりみて，ha当りのかんがい用水量は約年間7,０００m^3と算出される。従って，現況のかんがい用水の需要量は年間約9.８億m^3とみなされる。

b）飲料水，生活用水，工業用水

国家エネルギー庁（ＮＥＡ）によって作成されたパサック河上流プロジェクトのフィジビリティ・レポートによれば，流域内における飲料水，生活用水および工業用水に対する開発は，いくつかの機関によって継続的に行なわれてきている。公共事業として開発されているこれら用水は，パサック河本流および支流にその水源を頼っており，その量は約年間0.１１億m^3と算出され，これは１日当り３0,０００m^3にあたる。一方，私企業によって工業用水として年間約0.０９億m^3が開発されているので，流域内の飲料水，生活用水，工業用水は現在約年間0.２０億m^3供給されていることゝなる。

4.2　現在調査中のプロジェクトにおける水需要

a）かんがい用水

流域内において現在調査中のかんがいプロジェクトは，次に示す通りである。

i）支流における中規模かんがいプロジェクト

－１８ケ所　，１１５,５００ライ（１８,５００ha）

ii）ケン・コイ・バン・モーボンププロジェクト

－　８７,５００ライ（１４,０００ha）

計　２０３,０００ライ（３２,５００ha）

上記プロジェクトにおけるかんがい用水量を作付率１３５％として年間ha当り8,000m^3と推定すると，約年間2.6億m^3のかんがい用水が必要となる。

b）飲料水，生活用水，工業用水

現在の人口増加率よりみて，５０年後には流域内人口は約２０万人増えることにな

る。１人当りの飲料水，生活用水を１日１５０ℓとすると，年間約0.１１億m^3の水が余分に必要となる。工業用水に関しては，首都バンコックにおける将来需要が１人当り１日１３０ℓといわれており，この値を使用すると約0.０９億m^3の水が必要となる。従って，上記より合計0.２０億m^3の水が将来の飲料水，生活用水および工業用水として要求されることになる。

4.3 開発可能地区におけるかんがい用水の需要

ペチャブン市下流のパサック河両岸には，約２５0,0００ライ（４0,0００ha）の水田が広がっており，かんがい開発地区として将来農業開発が可能である。これら地区のかんがい用水需要量は作付率１３５％として約3.２億m^3と算出される。

以上述べた現在および将来の水需要は次の様にまとめられる。

	かんがい用水	飲料水，生活用水，工業用水	計
	（×１０^6 m^3）	（×１０^6 m^3）	（×１０^6 m^3）
i） 現　況	９８０	２０	1,０００
ii） 計　画	２６０	２０	２８０
iii） 将　来	３２０	—	３２０
計	1,５６０	４０	1,６００

5. 将来の水需要と供給

流域内の最大可能開発水資源量は，前項３で述べた様に１２億m^3であり，これは将来の需要量１６億m^3に対して不足する。しかしながら，実際には流域が北から南に細長い形状をもっていることから水の再利用が考えられ，可能開発水量の２０〜３０％は再利用出来るものとみられる。従って，流域内の水の需要と供給は，開発可能地区の開発段階である程度バランスするものと考えられるが，この場合の開発規模はそれ程大きなものは期待出来ない。

開発可能地区の開発時におけるかんがい農業は，既存水田の約７０％に対して可能であり，残り３０％は依然として天水田のまゝとなる。加えて，流域内土地資源の約４５％に当る4,２００,０００ライ（６７3,０００ha）の畑地は，現況の低生産地状態のまゝ残ることゝなる。これら畑地の土地生産性は，将来の人口増加による食料危機を考慮して，かんがい用水の供給によって増加されなければならない。従って，流域内の農業開発を達成

するためには，流域内における前述のプロジェクト推進に加えて大規模な流域変更プロジェクトが要求される。

6. 将来の方策と勧告

今迄述べた様に，流域内における水資源は将来の需要に対して不足することは明らかである。水資源のこの様な危機に対処するため以下の様な方策が提案される。

6.1 作付体系と作付率

I）かんがい農業は，既存水田においてのみ開発されること。

II）雨季において，多収性水稲が１００％の作付率にて耕作されること。

III）雨季水稲収穫後，乾季作として畑作物が３５％の作付率にて耕作されること。

流域内の水資源開発可能量と需要のバランスを考慮し，作付率は上述の様に１３５％以内におさえるべきである。

6.2 不足水資源の開発

流域内水資源は限度があり利用可能土地資源に比してどうしても不足するので，大規模な流域変更プロジェクトが不可欠である。

6.3 かんがい用水の節約

かんがいに使用される水の量は，流域全体の消費水量の約９８％に相当し非常に大きなウェイトを占める。従って，かんがい用水の節約は流域内水資源開発にとって重要な要因となる。かんがい用水の節約は基本的にかんがい組織の整備および水管理の改善によって可能であり，水資源開発とともに流域全域において実施されるべきである。

6.4 地下水の開発

地下水源は，当分の間将来の開発にそなえて貯えられるべきである。現在，飲料水，生活用水および工業用水はその水資源を河川水に頼っているが，将来，かんがい用水の急激な需要によって河川水が不足する場合，飲料水，生活用水，工業用水は地下水を利用することが望まれる。水質，水量からみて，地下水は，上記用水源として十分に利用可能と考えられる。

アタッチメント　2.

パサック河上流中規模かんがい計画プレ・フィジビリティ・スタディー，フィジビリティ・スタディーに対するスコープ・オブ・ワークス

（１９８１年4月２２日）

1. 序　言

タイ政府の要請に応えて，日本政府は技術協力プログラムの一環としてパサック河上流中規模かんがい計画に関するプレ・フィジビリティ・スタディー(A)，およびフィジビリティ・スタディー(B)を実施することを決定した。

日本国政府の技術協力プログラムの実施機関である国際協力事業団（ＪＩＣＡ）は，タイ国農業・協同省，王立かんがい局（ＲＩＤ）および関係諸機関の協力のもと調査を行なうものとする。

プロジェクトに対するスコープ・オブ・ワークスは，事前調査結果を基に作用されたもので，調査項目，実施スケジュールおよびタイ国政府によって供与されるサービス，施設を述べたものである。

本スコープ・オブ・ワークスは，タイ政府およびその関係諸機関との緊密な協力のもとで実施されるべき(A)および(B)の作業内容の概要を示すものである。プロジェクトにおいて提案された農業開発地区は以下の通りである。

スタディー(A)	1)	ファイ・ヤイ	約1,900 ha
	2)	ファイ・コン・ケン	約4,700 ha
	3)	クーロン・チャリアング・ラブ	約1,200 ha
	4)	ファイ・サディアング・ヤイ	約　440 ha

上記面積は，水文調査および既存施設の効果的使用の観点により変化する可能性がある。

スタディー(B)　対象地区は(A)の終了後決定される。

2. スタディーの目的

I) 実施優先順位の確定(A)

II) かんがい農業開発計画の明確化およびプロジェクトの実現可能性の確認(B)

Ⅲ) 最適水資源計画の策定(B)

Ⅳ) 調査，スタディー期間中のタイ政府技術者に対するオン・ザ・ジョブ・トレーニングの実施(A，B)

3. スタディーの概要

スタディー・チームによって実施されるべき作業は次の2段階に分けられる。

(1) タイ国における現地作業(A，B)

(2) 日本国における国内作業(A，B)

1) 現 地 作 業

(1) 既存資料，情報の収集および解析

a. 気象・水文(A，B)

b. 地形図(A，B)

c. 土 壌(B)

d. 地質・地下水(A，B)

e. かんがい・排水(A，B)

f. 農 業(A，B)

g. 農業経済・地域経済・農業組織等(A，B)

h. 洪水調節(A，B)

i. そ の 他(A，B)

(2) 資料・情報の解析および現場踏査に基づく計画地区の選定

(3) 計画地区における現地調査の実施

a. 気象・水文調査(A，B)

b. 地形測量(A)

c. テストピット，室内試験を含む土壌調査(B)

d. 地質・地下水調査(A，B)

e. かんがい・排水調査(A，B)

f. 土地利用調査(B)

g. 農業経済調査(A，B)

h. 農業調査(A，B)

i. 地域経済・農業組織調査(A，B)

j. 建設資機材・建設費用調査（A，B）

k. 洪水調節調査（A，B）

(4) プロジェクト計画に対する基本的事項の決定(B)

a. 計画地区

b. 土地利用および作付体系の概要

c. かんがい用水量

d. かんがい・排水水路網

e. 収量の算定

f. 農業組織計画

g. かんがい・洪水調節を考慮したダム計画と設計

h. 比較検討

2) 国内作業

現地調査結果を基に，以下のスタディーを国内作業として実施する。

(1) 提案されたプロジェクトの実施優先順位の確定(A)

(2) プロジェクト地区における比較計画案の検討を含む総合的なかんがい農業開発計画の確定(B)

(3) 主要構造物の基本設計(B)

(4) プロジェクトの費用および便益の算定（A，B）

(5) プロジェクトの経済評価(B)

(6) プロジェクトの実施計画の作成(B)

(7) 勧告の作成（A，B）

4. 作業工程

作業工程は添付図の通りである。

JICAは，スタディーを実施するため，添付図に示される作業工程に従って専門家によるスタディー・チームを用意する。

5. 報告書

以下の報告書が作成され，タイ政府に提出される。

(1) プラン・オブ・オペレーション（A，B）

（作業計画書）

調査開始時：英文３０部

(2) 中間報告書（A，B）

現地作業終了時：英文３０部

(3) ドラフト・レポート（A，B）

国内作業終了後一ケ月以内：英文３０部

(4) 最終報告書（A，B）

ドラフト・レポートに対するタイ政府のコメントを受取ってから二ケ月以内：英文５０部

6. タイ国政府からの便宜供与

現地作業を円滑に進めるために，タイ国政府より以下の便宜供与が期待される。

(1) スタディーに必要な資料・情報の提供（A，B）

(2) 現地作業に必要な調査資機材の通関に関する調整（A，B）

(3) 測量機器を含む調査に必要な資機材に対する税金等の免除に関する便宜供与（A，B）

(4) 調査団員現地滞在中における税金等の免除に対する便宜供与（A，B）

(5) 調査作業の円滑なる実施のためのタイ国政府機関係諸機関の協力に対する便宜供与（A，B）

(6) 作業に必要なコンピューター他機器の提供（A，B）

(7) 下記の分野に関するカウンターパート要員の提供

(a) 全体計画（A，B）

(b) かんがい排水計画（A，B）

(c) ダム基礎（B）

(d) ダム計画（A，B）

(e) 水　文（A，B）

(f) 地　質（A）

(g) 土　壌（A）

(h) 農　業（B）

(i) 農業経済（A，B）

(j) 農業組織(B)

(k) 測　量(A，B)

カウンターパートの数および期間は，調査開始前に調査団とタイ政府関係諸機関との打ち合せによって決定される。

(8) 調査団用事務所の提供(A，B)

(9) 目的地における調査実施のための関係諸機関の許可取得に関する便宜供与(A，B)

(10) 調査期間中の調査団員の身辺安全に対する便宜供与(A，B)

(11) 国内作業期間中にカウンターパートを日本に派遣することに対する便宜供与(A，B)

(12) 調査を円滑に推進するため，あらゆる分野における調査団への緊密な協力に関する便宜供与

作　業　工　程　表

年	月	スコープ・オブ・ワークスミッションの訪タイ	作業監理委員の訪タイ	現地作業	国内作業	報告書提出
1981	1					
	2					
	3					
	4	■				
	5					
	6					
	7					
	8		▶			◁ P.O
	9			▨		
	10		▶			◁ I.R
	11				▨	
	12					
1982	1		▶			◁ D.R
	2					
	3					◁ F.R
	4					
	5		▶			◁ P.O
	6			▦		
	7					
	8		▶			◁ I.R
	9				▦	
	10					
	11		▶			◁ D.R
	12					
1983	1					◁ F.R
	2					
	3					

(注) P.O：作業計画書，　I.R：中間報告書

D.R：ドラフト・レポート，　F.R：最終報告書

アタッチメント 3.

作業監理委員，調査団，カウンターパート名簿

(A) 作業監理委員

1.	委員長（総　括）	末松雄祐	農林水産省構造改善局設計課農業土木専門官
2.	委　員（農　業）	川西英之	農林水産省構造改善局事業計画課補佐
3.	委　員（農業土木）	風間　彰	農林水産省構造改善局設計課農業土木専門官
4.	委　員（農業土木）	坂元雄次	農林水産省近畿農政局東幡用水農業水利事業所開発課長
5.	委　員（農業経済）	青木熙元	農林水産省東北農政局地域計画課農政調整官

(B) 調査団およびカウンターパート

調査団	カウンターパート
1. 団　長 矢野信一	1. 全体調整 チャルンチャイ・キリンホム （RID：計画部）
2. 副団長 山本裕司	2. 全体調整 スポット・ルジラクル （RID：計画部）
3. かんがい・排水 川口　武	3. 測　量 プュール・チャンタシロ （RID：測量部）
4. ダ　ム 本多　昭	4. 水　文 サノン・ルタサク （RID：水文部）
5. 水　文 丹羽豊隆	5. 地　質 アムファイ・ヌティタチャレオン （RID：土質・地質部）
6. 地　質 尾関　規	6. 土　質 ダナイ・トウリヤデエン （RID：土質，地質部）

7. 農業経済

渡　部　哲　男

8. 設計／測量

関　　好

7. 農　　業

オソット・チャルンペ
（RID：維持管理部）

8. 経　　済

スパ・シンーインタラ
（RID：計画部）

アタッチメント　4.

フィジビリティ・スタディーに必要な追加作業

1. 追加地形測量

今回のスタディーにおいて計画されたダムはすべて地形，地質条件が許す限り最大限水資源を開発する様に規模が決められているが，現時点における利用可能な地形図では，ダムサイト，貯水池共すべてをカバーしきれない。又，ファイ・ヤイダムは当初ＲＩＤにて計画されたダムサイトより約５００ｍ上流に変更されたがこの変更ダムサイトの詳細な地形図はない。かんがい計画地区に関しては，ファイ・コン・ケン地区において一部地形図が不足している。

従って，フィジビリティ・スタディー実施に先立ち，ダムサイト，貯水池およびかんがい計画地区に対する追加地形測量が必要である。調査内容は次頁に示す表および図Ａ 4.1～Ａ 4.5の通りである。

2. 追加地質調査

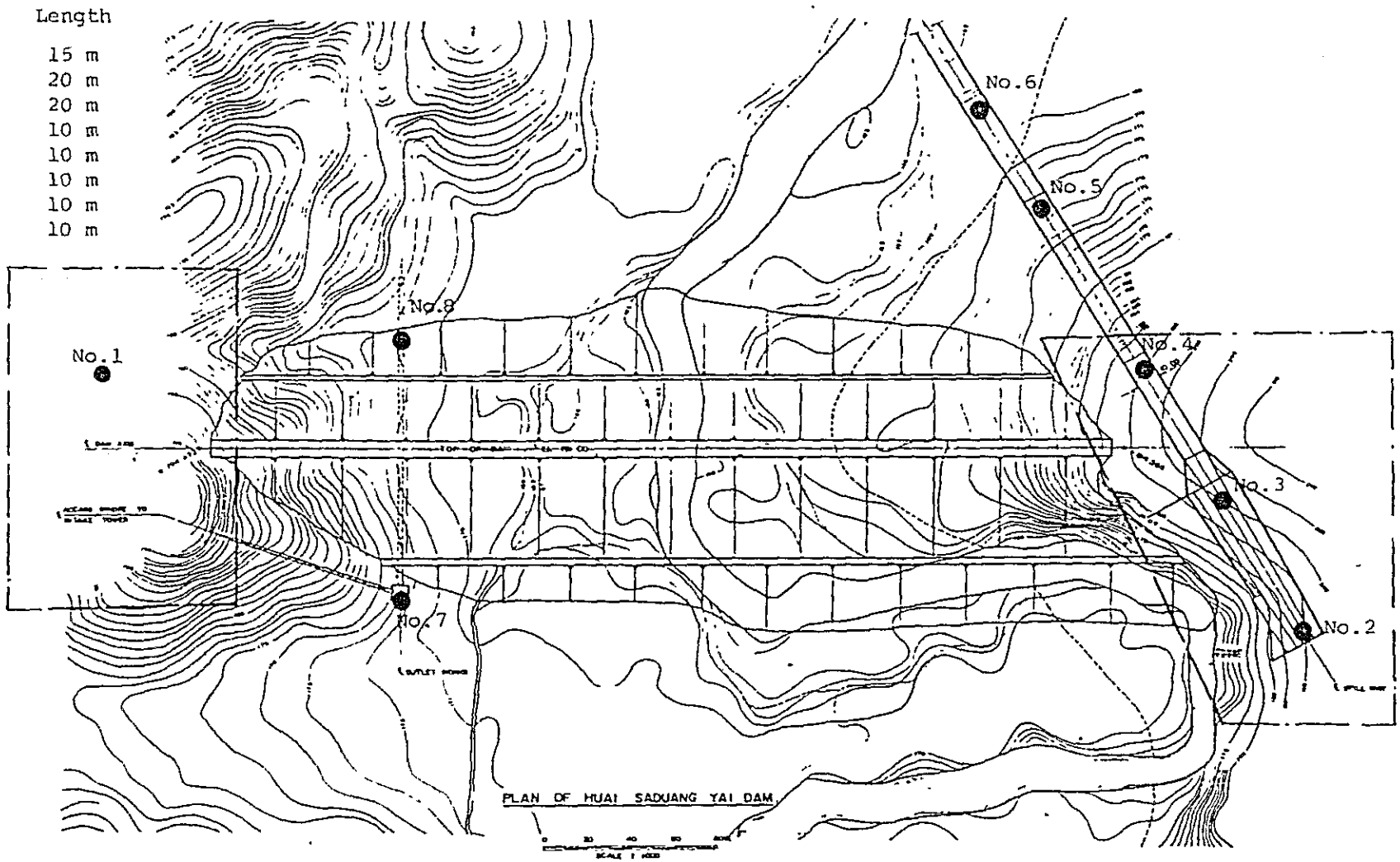
各ダムサイトにおける追加地質調査は，上記と同様の理由により，フィジビリティ・スタディー実施前に終了されることが望まれる。調査内容は次頁の表および図Ａ 4.1～Ａ 4.4に示す通りである。

表A 4.1　フィジビリティ・スタディーに必要な追加調査

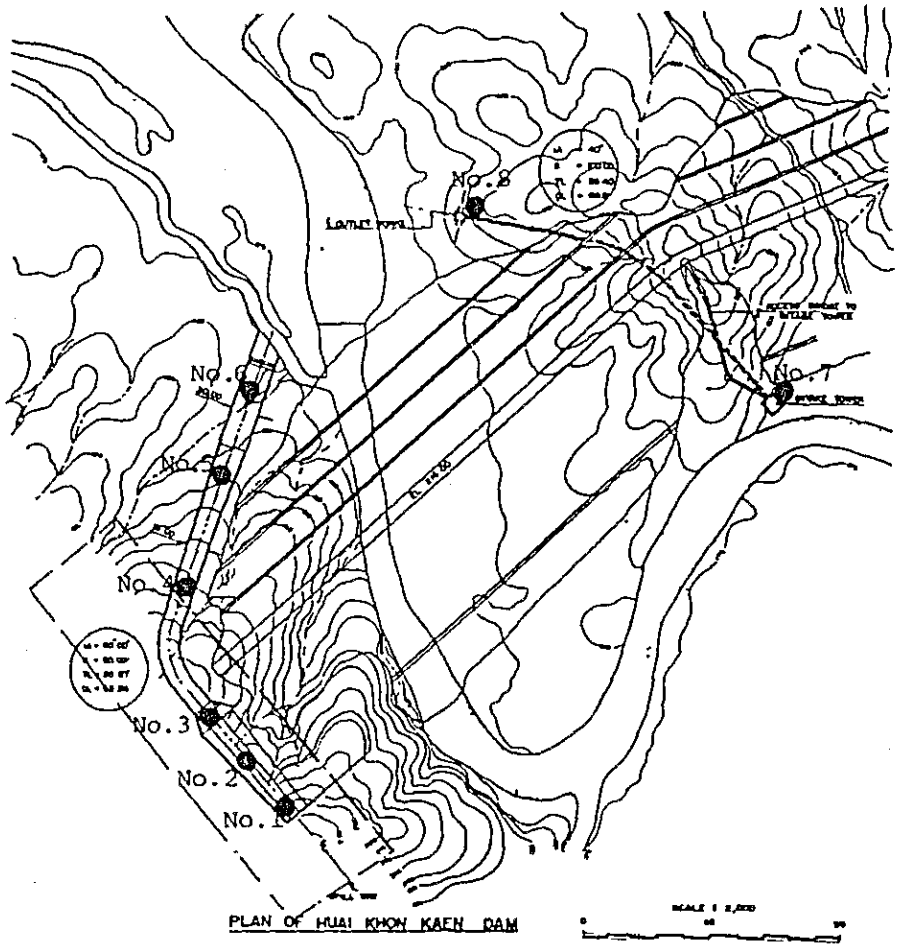
計画地区	調査項目	調　査　内　容	調査目的
1. ファイ・サディアング・ヤイ	地形測量	(a) 標高191.0m迄の貯水池追加測量 S＝1：4,000	貯水池計画
		(b) 両サイドアバットメントのダムサイト追加測量 S＝1：1,000	ダム計画
		(c) ダム軸，余水吐，取水施設の縦断測量	ダム計画
	地質調査	ボーリング	基礎計画
		(a) 左岸鞍部 No.1 深さ15m	
		(b) 余水吐 No.2，3 深さ20m	
		No.4～6 深さ10m	
		(c) 取水施設 No.7，8 深さ10m	
2. ファイ・コン・ケン	地形測量	(a) 左岸アバットメントのダムサイト追加測量 S＝1：1,000	ダム計画
		(b) ダム軸，余水吐の縦断測量	ダム計画
		(c) 計画かんがい地区の一部約3,000haの地形測量 S＝1：10,000	かんがい計画
	地質調査	ボーリング	基礎計画
		(a) 余水吐 No.1～3 深さ20m	
		No.4～6 深さ10m	
		(b) 取水施設 No.7，8 深さ10m	
3. ファイ・ヤイ	地形測量	(a) 標高213.0m迄の貯水池追加測量 S＝1：4,000	貯水池計画
		(b) ダムサイト地形測量 S＝1：1,000	ダム計画
		(c) ダム軸，余水吐，取水施設の縦断測量	ダム計画

計画地区	調査項目	調　査　内　容	調査目的
ファイ・ヤイ	地質調査	ボーリング (a) ダム軸　No.1，4，5　深さ30 m No.2，3，6　深さ25 m (b) 余水吐　No.7，8　深さ15 m No.9，10　深さ10 m (c) 取水施設　No.11，12　深さ10 m	基礎計画
4. クーロン・チャリアング・ラブ	地形測量	(a) 両サイドアバットメントのダムサイト地形測量　S＝1：1,000	ダム計画
		(b) ダム軸，余水吐，取水施設の縦断測量	ダム計画
	地質調査	ボーリング (a) 余水吐　No.1　深さ15 m No.2～4　深さ10 m (b) 取水施設　No.5，6　深さ10 m	基礎計画

Boring Holes	Length
No.1	15 m
No.2	20 m
No.3	20 m
No.4	10 m
No.5	10 m
No.6	10 m
No.7	10 m
No.8	10 m

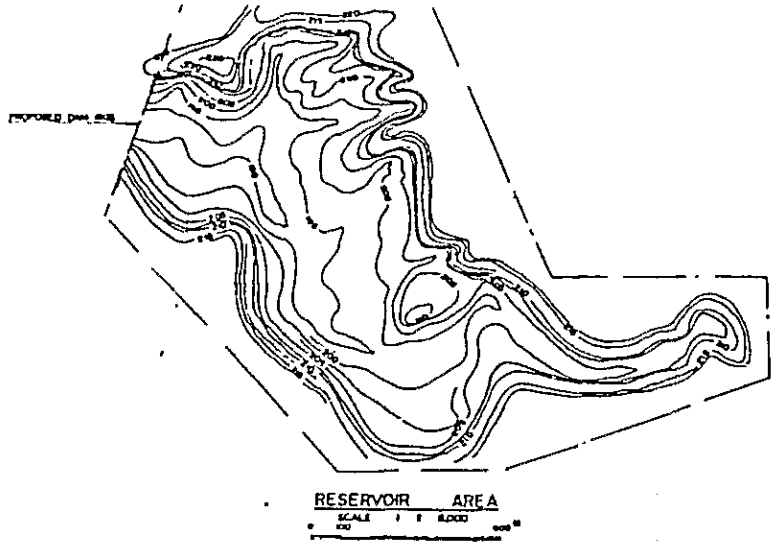


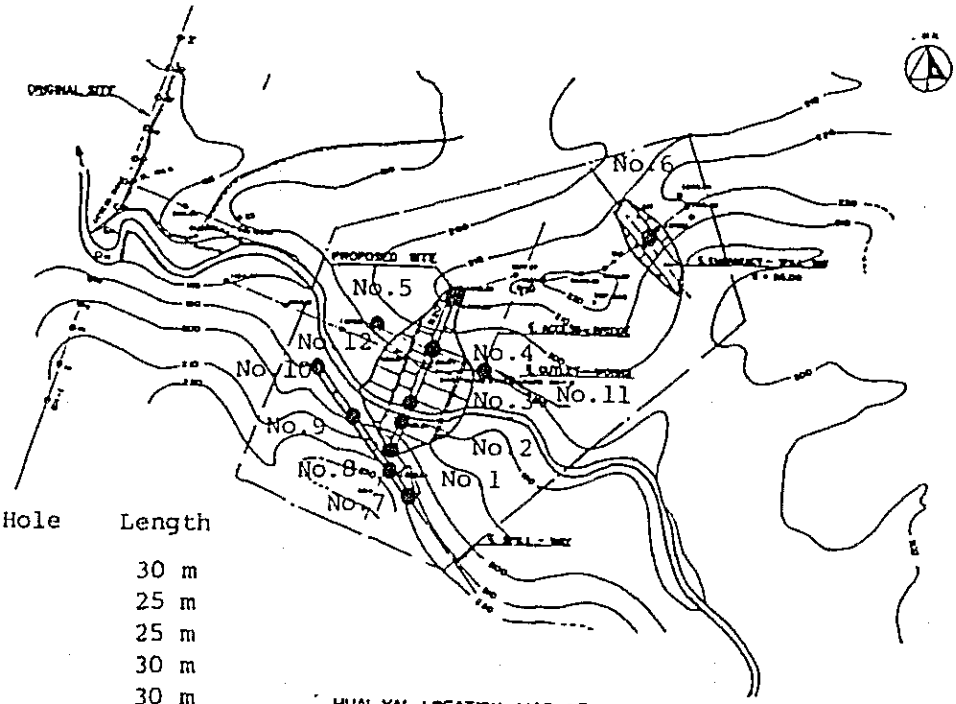
図A 4.1 ファイ・サディアング・ヤイダム追加測量地区およびボーリング位置図



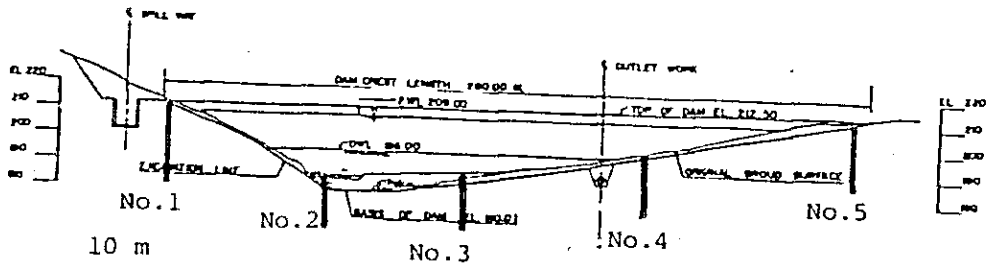
Boring Hole	Length
No.1	20 m
No.2	20 m
No.3	20 m
No.4	10 m
No.5	10 m
No.6	10 m
No.7	10 m
No.8	10 m

図A 4.2 ファイ・コン・ケンダム追加測量地区およびボーリング位置図

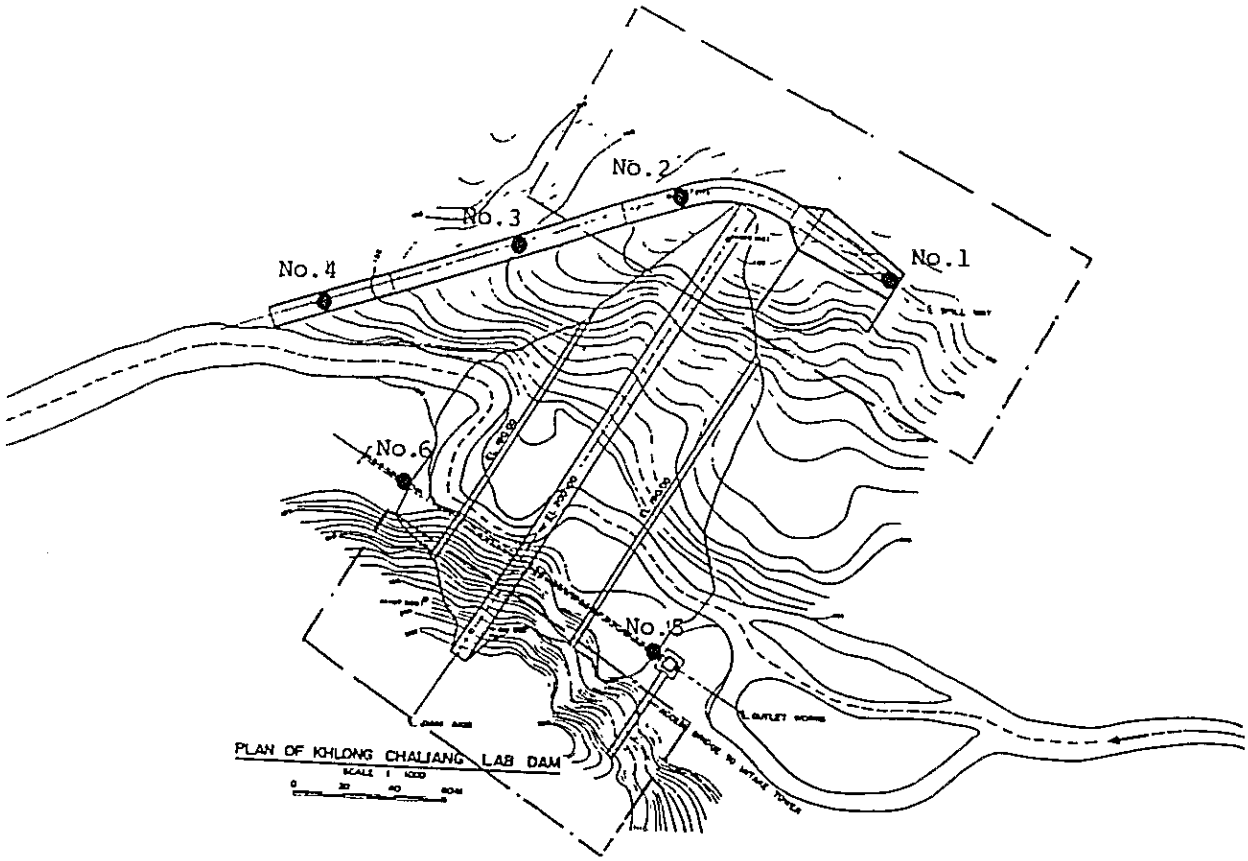




Boring Hole	Length
No. 1	30 m
No. 2	25 m
No. 3	25 m
No. 4	30 m
No. 5	30 m
No. 6	25 m
No. 7	15 m
No. 8	15 m
No. 9	10 m
No.10	10 m
No.11	10 m
No.12	10 m

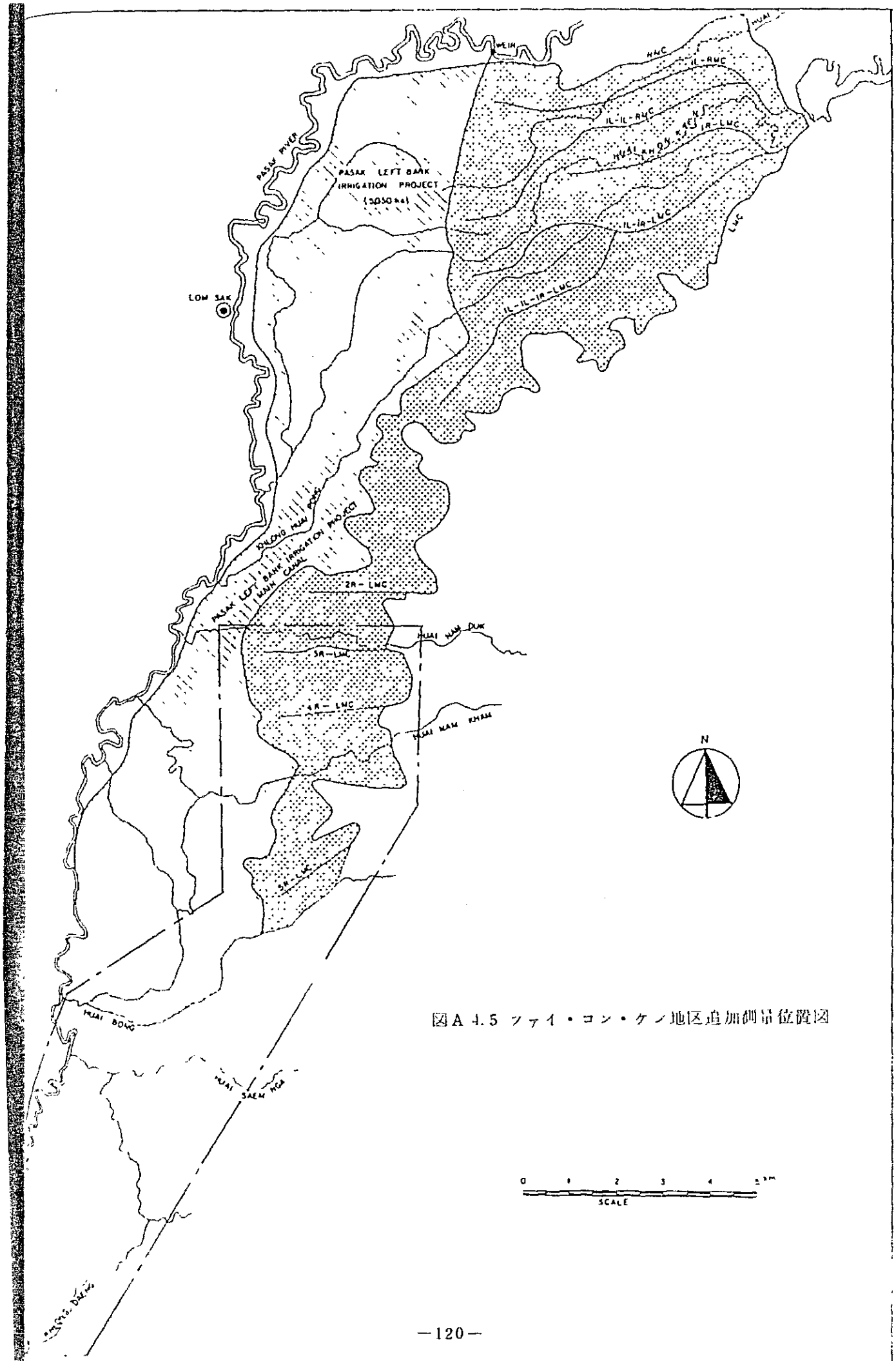


図A43 ファイ・ヤイダム追加測量地区およびボーリング位置図



Boring Hole	Length
No.1	15 m
No.2	10 m
No.3	10 m
No.4	10 m
No.5	10 m
No.6	10 m

図A 4.4 クーロン・チャリアング・ラブダム追加測量地区およびボーリング位置図



図A 4.5 ファイ・コン・ケン地区追加測量位置図

アタッチメント　5.

参　考　文　献

1. タイ国政府，第四次国家経済社会開発計画（１９７７～８１）
   －国家社会開発委員会，バンコック
2. タイの農業総計１９７９／８０
   －農業経済オフイス
3. 農業に関する主要経済指数
   －農業経済省，１９７９年１２月
4. 農業センサス，ペチャブン県　１９６３年，１９７８年
   －国家統計オフイス
5. ペチャブン県の統計報告，１９８０年
   －国家統計オフイス
6. タイ国における作付体系調査
   －農業拡張局
7. タイ国における雨量，蒸発量解析
   －アジア工科大学，１９８０年８月
8. パサック河上流プロジェクトフィジビリティ・スタディー報告書
   －チームコンサルタント，１９８０年１月
9. 中規模かんがいパッケージ・プロジェクトフィジビリティ・スタディー報告書
   －サー・アレキサンダー・キブ＆パートナー，チームコンサルトタント，
   １９８１年７月
10. チャオ・プラヤーメクロン流域スタディー報告書
   －エーカー・インターナショナル・リミティッド，ナイアガラ・フォールズ，
   カナダ，１９７９年１月
11. グレーター・チャオ・ピヤ・ウェスト・バンク・トラクトかんがい農業開発プロジェクトフィジビリティ報告書
   －国際協力事業団，１９７７年５月
12. メクロムかんがい農業開発プロジェクトフィジビリティ報告書
   －国際協力事業団，１９８０年３月

13. ペチャブン－チャイ・バダンハイウェイプロジェクトフイジビリティ・スタディー報告書

－国際協力事業団，１９７９年３月

14. ノン・ブアーバン・ラム・チハイウェイプロジェクトフィジビリティ・スタディー報告書

－国際協力事業団，１９８０年２月

15. 北部地域道路開発スタディー報告書

－国際協力事業団，１９８１年６月

16. 応用水文学

－リンスレイ，ビーケー，コーラー，エム・エー，ジェー・エル・エイチ・パウルフス

17. 応用水文ハンドブック

－バン・ティ・チョー

18. 水資源エンジニヤリング

－リンスレイ・フランツニ，インターナショナル・ステューデント・エディション

19. スモールダムの設計

－米国開拓局

20. 水資源計画の経済

－マッグロー・ヒルブックカンパニイー